

夏季せん定方式による **高糖系**  
**温州みかんの樹別交互結実栽培**  
交互結実栽培による計画的な生産で経営の安定をめざそう

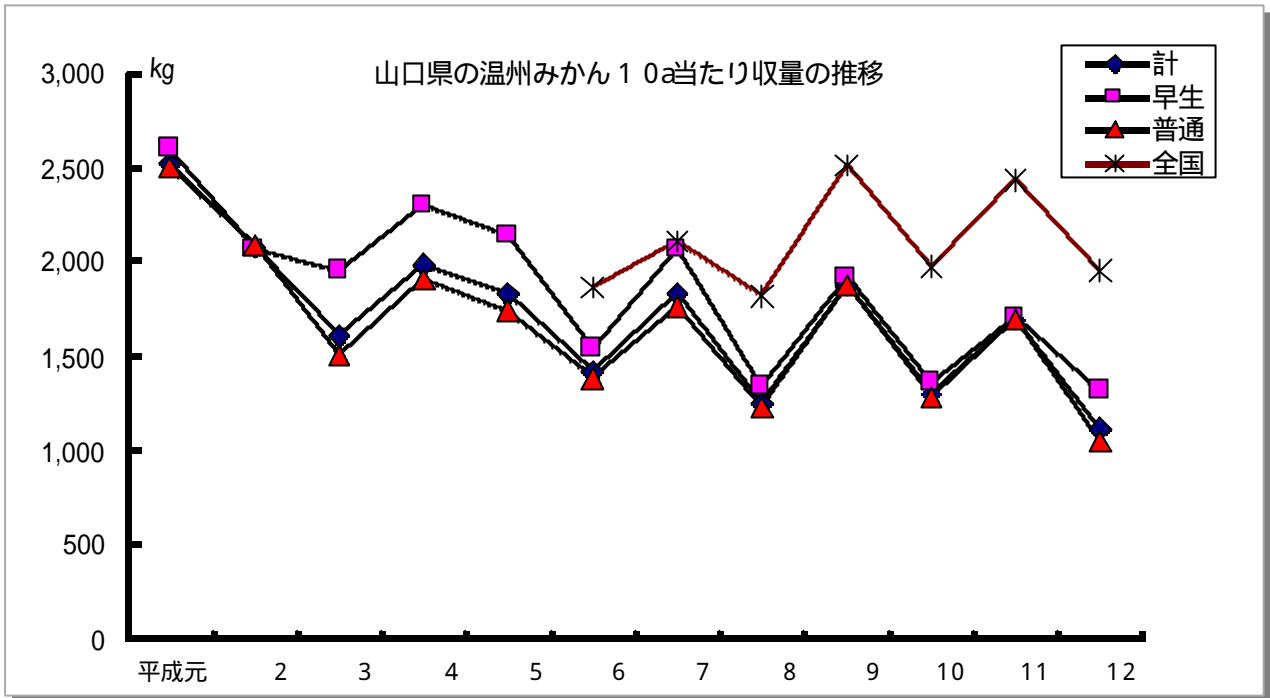


高糖系みかんをより収益性の高い果実に

温州みかんの隔年結果をおさえて、生産の安定に

**山口県農林部**

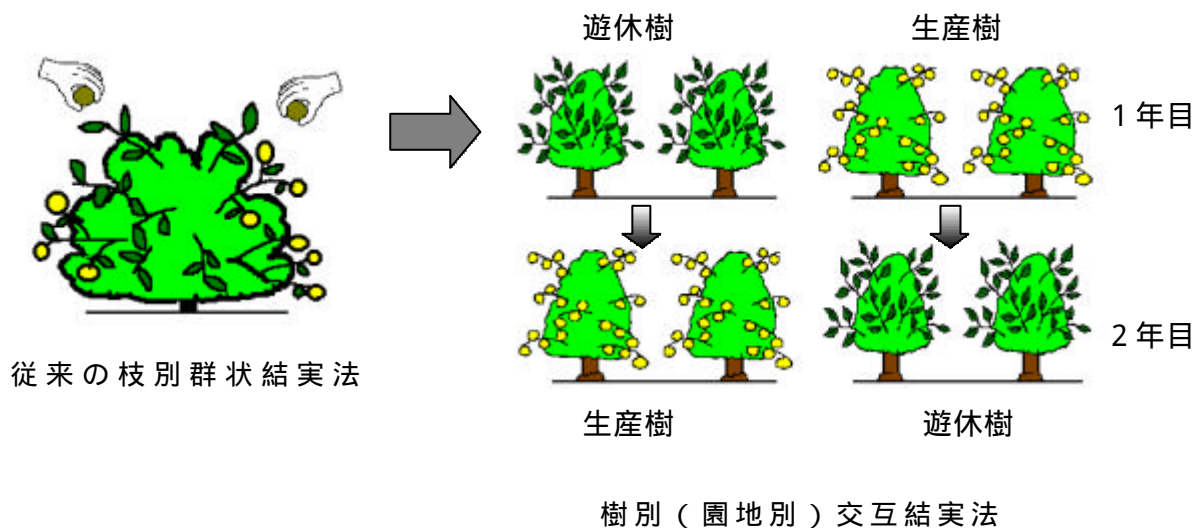
## 樹別（園地別）交互結実法のねらい



近年、全国的に温州みかんの隔年結果が顕著となっています。とくに、高品質・多様化する消費者ニーズに対応するため、急速に転換が進んできた、高糖系品種の「青島温州」や「大津4号」では、この傾向が強くなっています。

樹別（園地別）交互結実法は、これら品種の隔年結果防止対策として大島柑きつ試験場で開発された技術で、園内の樹を半数ずつまたは園地ごとに区分して、生産樹（2倍量着果樹）と遊休樹（無着果樹）を計画的に毎年交互に作るものです。

本結実法は、隔年結果の軽減と併せ、高品質化、省力化、低コスト化による収益性の向上をねらいとしています。



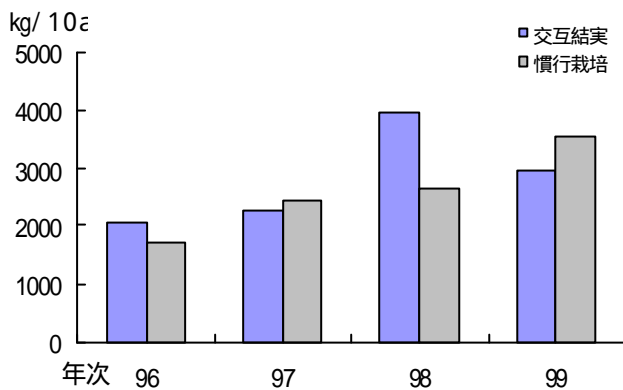
# 樹別交互結実栽培のメリットと導入上の留意点

## 1 収益性のメリット

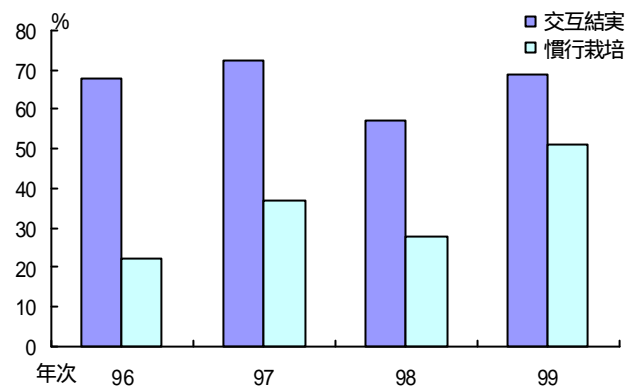
樹別交互結実では半数の生産樹で慣行栽培と同等の単収が確保でき、さらに商品性の高いM, L級果の割合は2~3倍に増加することで、隔年結果性が著しく軽減され収益性も高まります。

また経費については、遊休樹で使用する農薬等が少なくすむことから、慣行栽培に比べ薬剤費が60~65%に抑えられます。

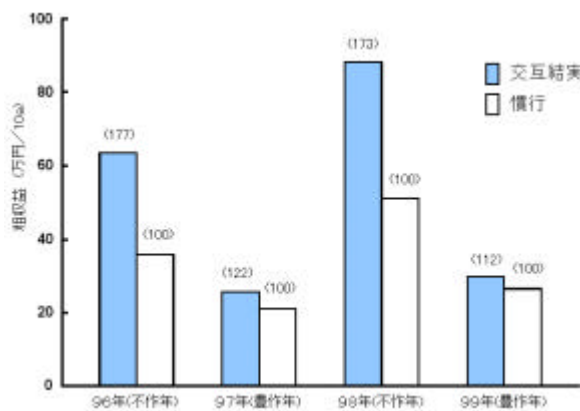
「交互結実法」と「慣行栽培」の年次別10a当たり収量



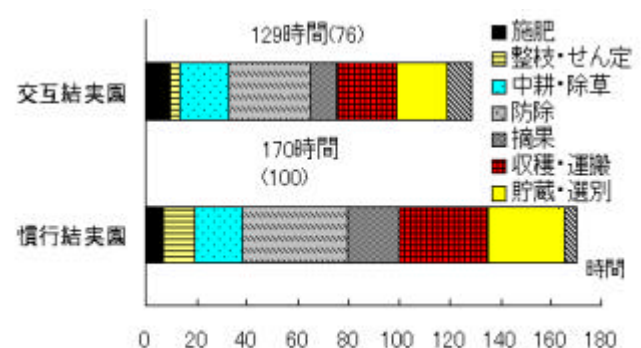
栽培方法の違いとM, L果の比率



栽培方法の違いと10a当たり販売額



10a当たり作業別労働時間



(上記のグラフはいずれも大島柑試成績)

## 2 省力化のメリット

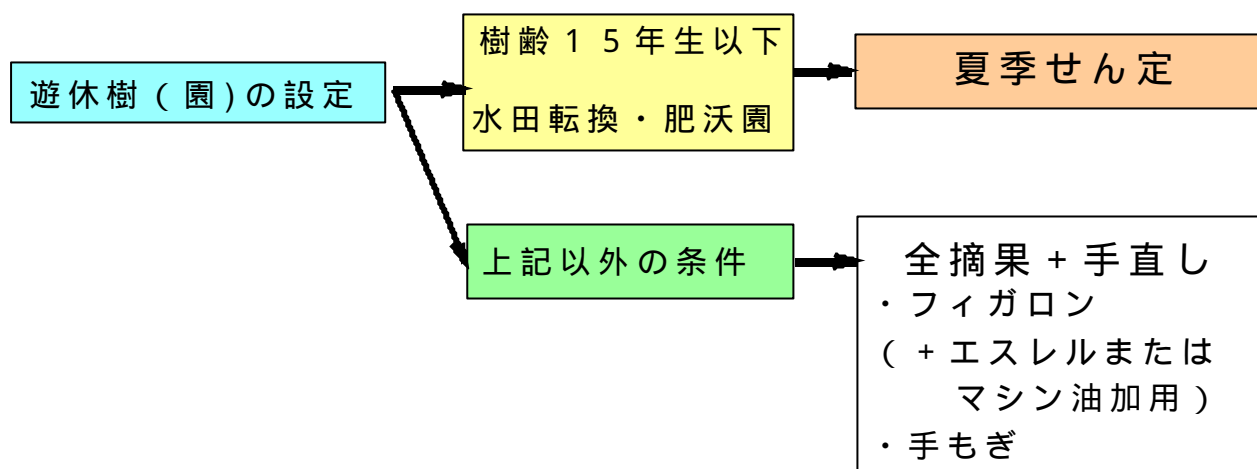
労働時間は慣行の栽培方法と比較して、全体で15~20%削減されます。

## 3 導入上の留意点

夏季せん定方式による樹別交互結実のポイントは、充実がよく、高品質な果実を生産する素質を持った結果母枝を遊休年に確保することです。「青島温州」など樹勢の強い品種の若木や肥沃園地では、春枝母枝利用では大玉になりやすいことから、夏季せん定で発生させた夏枝母枝を利用する結実法(本方式)が望ましい。

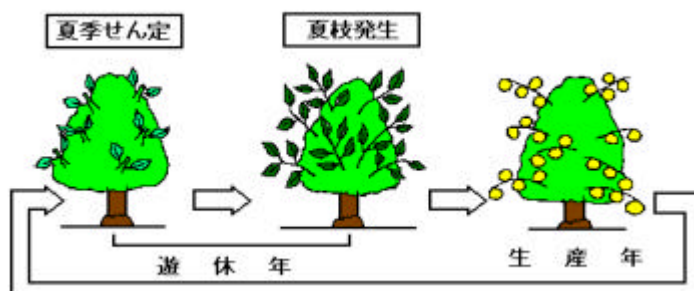
## 高糖系うんしゅうみかん（青島温州・大津4号）の

### 栽培条件の違いによる結実方法の選択基準



大津4号の夏季せん定は、樹勢や園地条件などの影響を受けやすいため、実施に当たっては指導員にご相談ください。

## 夏季せん定方式による樹別交互結実の要点



夏季せん定方式による交互結実栽培イメージ

### 1 せん定時期

7月20日を中心とした前後10日間（乾燥年は10日程度早める）

### 2 せん定の方法

樹冠容積 1㎡ 当たり予備枝設定本数15～16本

適する予備枝 当年の果梗枝など新しい枝を第一の対象  
2～3年生枝を予備枝とする場合、直径0.5～1cm  
着生角度45～60度程度、長さ15～20cmのやや強めの枝

除葉率 40%程度（大津4号では20～30%の範囲内）

植木用の刈込み鋏の利用で、せん定時間が4分の1に短縮

## 夏季せん定の流れ



せん定前の状態



果梗枝は予備枝として最適



せん定後の予備枝設定の状況



刈り込みばさみで行うと省力的



同年の夏枝発生状況



翌年の結実状況

## 遊休樹／生産樹の主な管理

### 1 生産樹の摘果方法

生産樹の摘果は時期と葉果比が浮皮の発生や糖度に影響を与えます。最適な時期、方法として、9月～10月にかけて、葉果比15～20程度に仕上げます。摘果は下図を目安に、3 L級以上の極大果と2 S級以下の極小果、傷果を取り除きます。

時期別摘果のめやす（青島温州）



3 L以上の極大果



3 S以下の極小果

9月10日時点  
10月10日時点

60 mm以上  
75 mm以上

36 mm以下  
44 mm以下

### 2 施肥

施肥は下表を基準として、生産樹と遊休樹に分けて行います。また、生産樹では生理落果の軽減に、開花前の水溶性カルシウム剤の葉面散布も有効です。

樹別交互結実栽培における施肥方法

	項目	春	夏	秋	合計
生産樹	施用時期	4 / 上	5 / 中	11 / 上	
	施用量kg/10a	10	10	10	30
遊休樹	施用時期	-	5 / 中	10 / 中	
	施用量kg/10a	0	10	10	20

（施用量は窒素成分）

### 3 病虫害防除

#### 遊休樹の防除

ミカンハモグリガの幼虫に対して8月上旬から2～3回の防除が必要です。このほかアブラムシ類、ミカンハダニ、かいよう病に対しても十分な注意が必要です。

#### 生産樹の防除

通常どおりに行います。

